

平成26年度

”萌える天北オロロンルート”活動報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 代表 西 大志	報告年月日: 2015/3/31
---------------------	--------------	------------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	H26					総括
			活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況資料番号	
景観	愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出	風景との出会いの演出	フィルムコミッションから学ぶ新たな観光開発事業(フォトコンテスト)	苫前町商工会青年部	平成26年8月～10月 (応募期間)	20人(主催者側)応募者数35人・応募作品数35作品(一般)	A - 2	景観形成についての総括・景観形成の活動は、地域のすばらしい景観雄飛掘に注目し、フォトコンテストを通じた素材の集積を実施しており、活動を通じて、自分たちの住む地域のよさや美しさを改めて認識する場となっている。 ・今年で3年目となるフィルムコミッションから学ぶ新たな観光開発事業は、徐々に多彩な景観写真が集積されつつある。今後、これらの素材を活かしたPRの仕方などが課題となっている。 ・今年度は初めて、シーニックの他のルート(大雪・富良野ルート、宗谷シーニックバイウェイ)と連携したフォトコンテストを開催し、数多くのすばらしい景観素材を収集することができるのと同時に、他のルートのよさを知る機会にもなった。今後の課題として、連携事業をどのような役割分担で進めていくのかなどに課題がある。 ・新たに、地域のすばらしい景観を楽しむことができるレストラン等の施設をシーニックカフェとして登録した。今後は、管内でのカフェの運用方法などをどうするのかの検討が必要となっている。
			シーニックバイウェイ3ルート連携フォトコンテスト	シーニックバイウェイ3ルート連携フォトコンテスト実行委員会	平成26年8月1日～10月25日 (応募期間)	20人(主催者側)/応募者数32人・応募作品数117作品		
			景観診断プロジェクト	-	-	-		
			菜種・ヒマワリクリーンエネルギープロジェクト	-	-	-		
			フォーラム開催プロジェクト	-	-	-		
			風景街道テーマ別意見交換会 (風景街道の意見交換会に参加)	-	-	-		
			シーニックカフェの登録	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	平成26年6月、10月	10人		
		花とみどりの景観づくり	エゾカンゾウ植栽プロジェクト	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	平成26年6月21日	8人(主催者側)		
			菜種・ヒマワリクリーンエネルギープロジェクト	-	-	-		
			萌天の森プロジェクト	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	平成26年7月～12月	3人(主催者側)		
		愛着と誇りの醸成	景観診断プロジェクト	-	-	-		

食	自然の恩恵である地元食材のブランド化と魅力の発信	地場製品の魅力づけ	ひらめ底建網オーナープロジェクト (食材オーナー制度プロジェクト)	ひらめ底建網オーナーin 遠別実行委員会(遠別漁協、遠別町産業振興公社、エフエムもえる)	平成26年6月21日	80人(主催者側) 800人(一般)	A - 1	食についての総括 ・今年で7回目を迎えるひらめ底建網オーナープロジェクトは、地元の活動団体が中心となって継続的、発展的な取り組みを実施している。出漁日に実施している主にオーナーを対象としたイベントでは、地域住民や一般参加者も増えつつあり、多数の方の参加を得ている。 ・今年も商工会青年部連合会が中心となり、チカホでのシーニックPRイベントにて管内の特産物を販売し、地域ブランドの構築につながる取り組みとなった。
		新メニューの企画	ひらめ底建網オーナープロジェクト (食材オーナー制度プロジェクト)	ひらめ底建網オーナーin 遠別実行委員会(遠別漁協、遠別町産業振興公社、エフエムもえる)	平成26年6月21日	80人(主催者側) 800人(一般)	A - 1	
		地域ブランドの構築	ひらめ底建網オーナープロジェクト (食材オーナー制度プロジェクト)	ひらめ底建網オーナーin 遠別実行委員会(遠別漁協、遠別町産業振興公社、エフエムもえる)	平成26年6月21日	80人(主催者側) 800人(一般)	A - 1	
			チカホでのシーニックPRイベントにて地域特産物の販売実施	留萌管内商工会青年部連合会	平成26年10月18日	7人(主催者側)		
			情報受発信プロジェクト⑤ ～萌か留た～	地域情報受発信システム実行委員会	平成26年10月～2月平成27年3月	5人(主催者側)/配布枚数4800枚程度	A - 3	
環境保全	地球に優しい「くらしぶり」のお手本づくりと促進	クリーンエネルギーのイメージづくり	菜種・ヒマワリクリーンエネルギープロジェクト	-	-	-		環境保全についての総括 ・エゾカンゾウ植栽プロジェクトについては、人員及確保が引き続き課題となっている。今年は植栽ではなく採取した趣旨をイベント来場者に配布し、普及活動を実施した。 ・萌天の森プロジェクトは、植樹木の草刈を実施するとともに、生育状況を把握した。植樹木をより生息に適した環境に移植させることを検討している。 ・今年度は新たに、活動団体主催のシンポジウムのサポートを行い、多様な関係者との連携を持つことが出来た。
			フォーラム開催プロジェクト	-	-	-		
			萌天の森プロジェクト	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	平成26年7月～12月	3人(主催者側)		
		ゴミ対策の取り組み	-	-	-	-		
		身近な生態系の保全・復元	エゾカンゾウ植栽プロジェクト	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	平成26年6月21日	8人(主催者側)		
			萌天の森プロジェクト	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	平成26年7月～12月	3人(主催者側)		
			天塩イトウシンポジウム(共催)	NPO法人天塩川を清流にする会	平成26年10月11日	20人(主催者側) 100人(一般)		

レクリエーション	暮らしに根ざしたもてなしによる暖かい交流の魅力づくり	ロングドライブのサポート	景観診断プロジェクト	-	-	-		レクリエーションについての総括 ・レクリエーションの活動については、地域イベントに参加し、シーニックのPR活動を通じて、地域内外の方に情報発信を行う機会を持つことが出来た。
			フォーラム開催プロジェクト	-	-	-		
			萌天の森プロジェクト	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	平成26年7月～12月	3人(主催者側)		
			情報受発信プロジェクト⑤ ～萌か留た～	地域情報受発信システム実行委員会	平成26年10月～2月平成27年3月	5人(主催者側)/配布枚数4800枚程度		
		身近なアウトドアの紹介	-	-	-	-		
		各種カルチャー活動による交流	フィルムコミッションから学ぶ新たな観光開発事業(フォトコンテスト)	苫前町商工会青年部	平成26年8月～10月(応募期間)	20人(主催者側)応募者数35人・応募作品数35作品(一般)		
			送り火フォトコンテストの開催	-	-	-		
			エゾカンゾウ植栽プロジェクト	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	平成26年6月21日	8人(主催者側)		
			菜種・ヒマワリクリーンエネルギープロジェクト	-	-	-		
			えび地酒まつりでのシーニックPR展示	増毛えび地酒まつり実行委員会	平成26年5月24日・25日	10人(主催者側)200人(一般)		
熊嵐の舞台・三毛別の活用	-		-	-				
歴史・文化	先代の暮らしぶりと新たな価値観を将来に伝え楽しむ	歴史資源の保全と活用	情報受発信プロジェクト⑤ ～萌か留た～	地域情報受発信システム実行委員会	平成26年10月～2月平成27年3月	5人(主催者側)/配布枚数4800枚程度	A - 3	歴史・文化についての総括 ・昨年度から実施した萌か留たについて、地元の企業からサポートのオファーをいただくなど、徐々に広がりを見せつつある。今後は、他の情報発信ツールとともに、地域独自の生活文化を知るきっかけとなるツールとして、展開していきたいと考えているが、資金の確保が課題となっている。
			次世代への歴史伝承	-	-	-	-	
		独自の生活文化の発見	フィルムコミッションから学ぶ新たな観光開発事業(フォトコンテスト)	苫前町商工会青年部	平成26年8月～10月(応募期間)	20人(主催者側)応募者数35人・応募作品数35作品(一般)		
			送り火フォトコンテストの開催	-	-	-		

全体	上記内容全体の方針に関わる活動	情報受発信プロジェクト ① ～冊子:るもい食楽歩～	地域情報受発信システム実行委員会 留萌観光連盟	年数回発行	50人(主催者側)	A - 3	地域づくりについての総括 ・オロロンマップを中心に、様々なツールを活用した管内のよさや旬の情報は真の取り組みが、地域の内外に浸透しており、地域づくりの取り組みが深まっている手ごたえを感じている。課題として、継続的な情報発信のための資金の確保などが挙げられる。 ・このほか、交流人口の拡大や、ルート外、都市圏との地域交流についても取り組みが必要とされている。
		情報受発信プロジェクト ② ～オロロンマップの活用～	地域情報受発信システム実行委員会 留萌観光連盟	通年	50人(主催者側)	A - 3	
		情報受発信プロジェクト ③ ～道の駅スタンプラリー～	萌える天北オロロンルート	平成26年6月21日～11月3日	50人(主催者側) 1,572人(一般)	A - 3	
		情報受発信プロジェクト ④ ～オロロンドライブ情報～	地域情報受発信システム実行委員会 留萌開発建設部	年数回発行	5人(主催者側)	A - 3	
		情報受発信プロジェクト ⑤ ～萌か留た～	地域情報受発信システム実行委員会	平成26年10月～2月平成27年3月	5人(主催者側)/配布枚数4800枚程度	A - 3	
		情報受発信プロジェクト ⑥ ～留萌管内観光アンケート～	地域情報受発信システム実行委員会 北海道開発技術センター	平成26年10月～2月	5人(主催者側)/アンケート36部	A - 3	
その他							

萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku Ororon Scenic Byway

活動名：ひらめ底建網オーナープロジェクト

【概要】7回目を迎える本取り組みは、当ルートの遠別漁協、遠別産業振興公社、そして留萌市のエフエムもえるが協力して、遠別の特産であるヒラメを全国に発信し、ブランド力を高めるためにオーナー制度を実施。オーナーは、漁イベント当日に揚がったヒラメや雑魚を山分けする。今年も例年通り、優先枠オーナーの猟場見学や、地域物産品の販売、ひらめの捌き方教室などのイベントを実施。乗船できない一般枠のオーナーも全道各地から訪れ、各々用意した発泡スチロールにひらめや他の魚を持ち帰るなど、イベントを楽しんだ。オーナーは全国各地から応募があり、札幌などの道内都市でも徐々に遠別のひらめのブランド化が定着しつつある。萌える天北オロロンルートとして、地域物産品の販売やシーニックパネル展と運営補助を行った。

【日時】平成26年6月21日（土）

【場所】遠別漁港 【参加人数】約800人

【主催】ひらめ底建網オーナーin遠別実行委員会

【協力】萌える天北オロロンルート運営代表者会議、(株)遠別産業振興公社、
遠別地域マリンビジョンフォローアップ委員会

【後援】留萌開発建設部、北海道留萌振興局、遠別町



遊漁船によるオーナーの見学



ヒラメや雑魚を山分け



地域物産品の販売



パネル展の様子

萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku Ororon Scenic Byway

活動名：シーニックバイウェイ3ルート連携フォトコンテスト

【概要】道北の3ルート（大雪富良野ルート、宗谷シーニックバイウェイ、萌える天北オロロンルート）の連携事業として、3ルート連携フォトコンテストを開催。インターネットやチラシ、ポスター等による広報周知を行い、37名の方から応募が寄せられた。入賞された方への賞品には、各ルートの特産品を用意して発送した。今後は、フォトコンテストの写真をを使ったパネルを作成し、パネル展を開催していく予定である。次年度は、素材の活用方法について検討するとともに、次年度も継続してフォトコンテストの開催を予定している。

【日時】平成26年8月1日～平成26年10月15日

【場所】萌える天北オロロンルート・大雪富良野ルート・宗谷シーニックバイウェイ

【主催】シーニックバイウェイ3ルート連携フォトコンテスト実行委員会

【参加人数】57名（主催者名20名、一般応募者37名、応募作品117作品）



チラシ・ポスターによる広報



審査会の様子



グランプリ作品『星降る岬』

萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku Ororon Scenic Byway

活動名：情報受発信プロジェクト⑤ ～「萌か留た」～

【概 要】今年で2年目となる本取り組みは、管内の連続性を認識されるとともに、周遊観光や再訪意欲を高めることを目的に、管内の9市町村の地域資源を「花鳥風月」のテーマで収集し、「萌か留た」を作成した。参加者からの入手方法が困難であるとの指摘を踏まえ、今年は10月から翌年3月末まで、道の駅等で500円以上のお買い物をされた方にプレゼントする方法で実施した。地元紙に取り上げられたほか、地元の信用金庫の店舗内でパネル展を開催。また、実際に萌か留たを使って3世代交流プロジェクトとしておじいちゃんと孫が一緒にカルタで遊ぶ企画も実施した。さらには、札幌市の地下歩行空間に設置されているデジタルサイネージにて放映するなど、徐々に取り組みの規模が大きく展開してきている。現状では、制作は全て手作業であり、資金の確保が課題となっている。

【日 時】平成26年10月1日～平成27年3月末

【主 催】地域情報受発信システム実行委員会

【配 布】道の駅等



「萌か留た」平成26年度版



実施概要



チカホでの上映の様子

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称: 萌える天北オロロンルート		報告者: 留萌開発建設部	報告年月: 2015/3/31				
	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成26年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
景観	愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出	フィルムコミッションから学ぶ新たな観光開発事業で実施した「苫前・羽幌・初山別フォトコンテスト」の作品巡回パネル展による広報活動 主催: 苫前・羽幌・初山別商工会青年部	平成27年2月27日 ～3月20日	苫前町、羽幌町、 初山別村	「苫前・羽幌・初山別フォトコンテスト」応募作品の巡回パネル展をとままえ温泉ふわっと、はぼろ温泉サンセットプラザ、初山別村岬センターで開催し、広報活動に協力した。	地域景観の紹介や地域景観づくりの継続した取り組みが定着している。 今後も、効果的なPRや、取り組みを地域全体に展開できる体制作りを進めたい。	
		エゾカンゾウ植栽プロジェクト 主催: 萌える天北オロロンルート	平成26年6月 ～10月	留萌開発建設部	自生種の風景の復元を目指して、「エゾカンゾウ」の種取り・苗作り・植栽の活動を実施した。		
食	自然の恩恵である地元食材のブランド化と魅力の発信	ひらめ底建網オーナープロジェクト(食材オーナー制度プロジェクト)における広報活動 主催: ひらめ底建網オーナーin遠別実行委員会	平成26年6月21日	留萌開発建設部	ひらめ底建網オーナーin遠別において、萌える天北オロロンルートの活動紹介とシーニックバイウェイ北海道の広報やパネル展示、地域イベント情報を提供するドライブ情報紙やオロロンまっぷ及び萌える天北オロロンルート「道の駅」スタンプラリー2014の応募用紙を配布した。 今後も、ルートの活動やシーニックバイウェイ北海道の更なる認知度向上に向けた取り組みが必要。	地域イベントを活用したルートのPR活動が定着している。 継続して認知度向上に向けたPR活動を進めたい。	
全体	景観、食、環境保全、レクリエーション、歴史・文化全体の方針に関わる活動	「るもい食楽歩」ホームページのリンク及び情報紙「るもい食楽歩」の配布 発行・編集: 留萌観光連盟	通年	留萌市、増毛町、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、留萌開発建設部	ルートの活動や地域情報の発信を目的として、「るもい食楽歩」のホームページと留萌開発建設部及び各自治体のホームページをリンクして連携した広報活動を行うとともに、情報紙「るもい食楽歩」を留萌開発建設部、各自治体の庁舎及び道の駅で配布した。	まちづくり、地域づくりをテーマとしたルートの様々な活動は、継続した取り組みにより地域内外に浸透している。 今後も、これらのツールを有効に活用し、ルート活動や地域資源のPR活動を進めたい。	
		「萌える天北オロロンルート: 道の駅スタンプラリー」との連携 主催: 萌える天北オロロンルート 6/21～11/3	平成26年6月18日 ～12月16日	小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、留萌開発建設部	[自治体] 道の駅との連携及び応募者への地域特産品の提供を行い、スタンプラリーの開催に協力した。 [留萌開建] 道の駅との調整や記者発表による広報活動を実施した。		
		ドライブ情報紙の発行 発行・編集: 地域情報受発信システム実行委員会、留萌開発建設部	通年	留萌市、増毛町、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、幌延町、留萌開発建設部	[自治体] 各地域のイベント情報を提供し、ドライブ情報の作成に協力した。 [留萌開建] ルート内で行われるイベント情報や景観ポイント等、ドライブに役立つ情報の提供を目的とする情報紙「オロロンドライブ情報」を11回発行するとともに、道の駅及び自治体へ配布した。また、データを留萌開発建設部ホームページに掲載した。		
		萌える天北オロロンルートホームページのリンク	通年	留萌市、増毛町、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、幌延町、留萌開発建設部	ルートの認知度向上を目的として、ルートのホームページと留萌開発建設部及び各自治体のホームページをリンクして連携した広報活動を行った。		
		案内標識への風景街道看板設置(★)	通年	留萌開発建設部	ルートの認知度向上を目的として、留萌管内2箇所の案内標識へシーニックバイウェイ北海道の看板を掲示した。		

※表中“★”は、H26新規に実施した活動